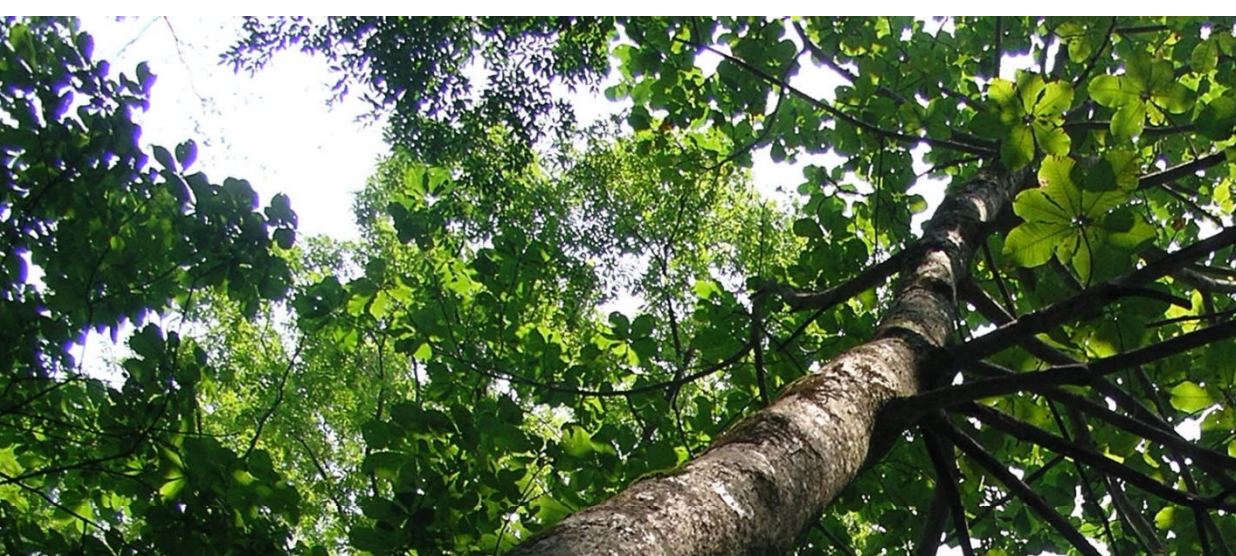
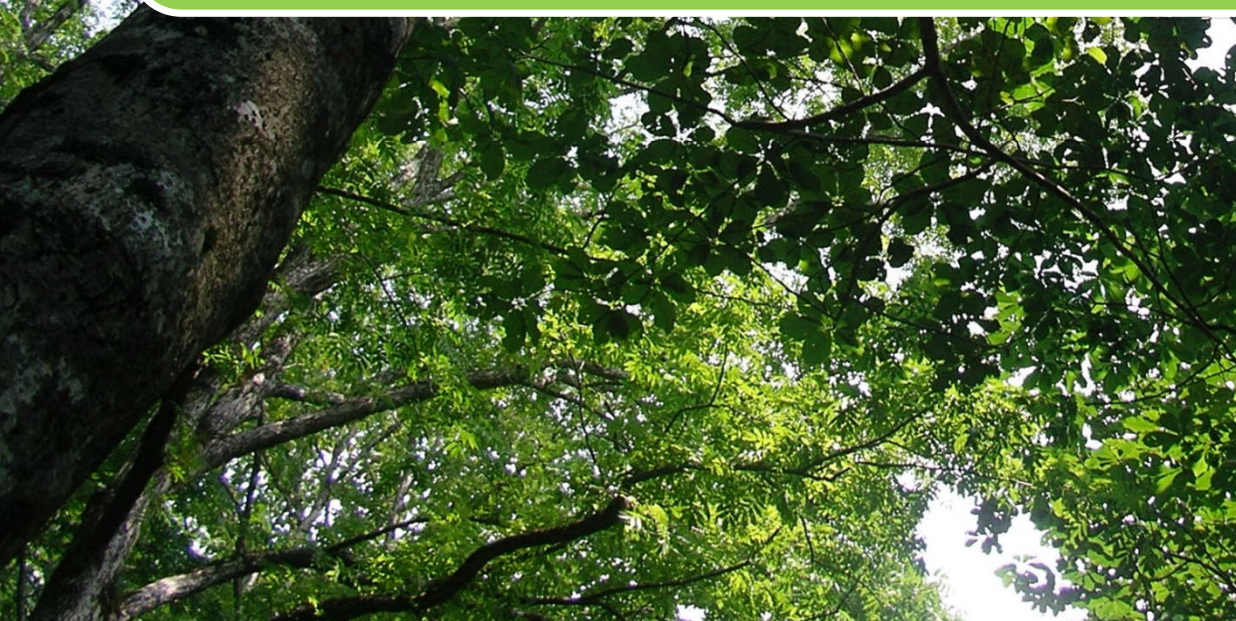




令和3年3月3日
令和2年度つたえる、感じる、つながる、
森林×SDGsプロジェクト事業最終報告会



SDGs時代に対応する 森林空間を活用した教育のあり方

林野庁 森林利用課
山村振興・緑化推進室
安高 志穂

内 容

1. SDGsと森林

2. 森林環境教育とは

- 森林・林業分野からの視点

- 教育分野からの視点

- 山村振興からの視点

3. 森林環境教育の課題と方向性

4. SDGs時代の森林環境教育

SDGs と森林



我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係

- 森林そのものが様々なSDGsに貢献。さらに森林資源・森林空間の利用を通じ、様々なSDGsに貢献。
- これらの利用は、林業・木材産業を通じ、森林の整備・保全に還元されるという大きな循環につながっている。



注1：アイコンの下文言は、期待される主な効果等を記載したものであり、各ゴールの解説ではない。

2：このほか、ゴール1は森林に依存する人々の極度の貧困の撲滅、ゴール10は森林を利用する権利の保障、ゴール16は持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組みの促進等に関連する。ここに記載していない効果も含め、更にSDGsへの寄与が広がることが期待される。

内 容

1. SDGsと森林

2. 森林環境教育とは

- 森林・林業分野からの視点

- 教育分野からの視点

- 山村振興からの視点

3. 森林環境教育の課題と方向性

4. SDGs時代の森林環境教育

森林環境教育について

森林環境教育とは

森林内での様々な体験活動等を通じて、
森林と人々の生活や環境との関係につ
いての理解と関心を深める取組

(令和元年度 森林・林業白書より)



森林環境教育の始まり

平成11年（1999年）2月18日中央森林審議会答申の中で、初めて
「森林環境教育」が提唱され、平成14年度の「森林・林業白書」で
初めて明文化された。

森林環境教育とESD

持続可能な開発のための教育（ESD）とは

環境、貧困、人権、平和、開発といった、現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それにより持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のこと。

ESD : Education for Sustainable Development

関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組むことが必要
(文部科学省HP)



森林での教育活動は、森林が人々の生活に必要な多面的な機能を有していること、様々な生物が共存していること、生活に必要な資材や燃料を木材という再生産可能な資源として供給する場であることなどから、「持続可能な社会づくり」に向けての学習効果が期待できる。

【ESD概念図】



内 容

1. SDGsと森林
2. 森林環境教育とは
 - 森林・林業分野からの視点
 - 教育分野からの視点
 - 山村振興からの視点
3. 森林環境教育の課題と方向性
4. SDGs時代の森林環境教育

森林の働き①

水源涵養機能
かんよう
っていうよ

木の源を守る。そして水を貯めてゆっくり流す働き

緑のダム

降ってきた水たちは、ふかふかした森の土のすきまの中にゆっくりとしみこんでいくんだよ



ザ——ッ

ポツリ
ポツリ

たくさんの葉が
雨つぶを受け止め
雨水をしずくや
幹のたいで地面に
流すんだ

ふかふかの森の土の中を
通った水は、ろ過されて
きれいな水に
なっていくんだ

おいしーい！



森林の土にしみこんだ水は
地下水になる

地下水は、地層のすきまや、岩の割れ目を通るうちに
適度のミネラルが溶けていくので美味しい水になるよ



土の層のすきまで水をろ過したら、
とけている化学物質を吸い取ってしまうんだ
森の土はまさに自然の浄水器！

深い土の中の温度は一定だから地下水は、
夏も冬も土の中で一定の温度に保たれるの
だから地下水は、夏は冷たく、冬は暖かく感じるんだ～



雨がずーっと降らなくても、
川の水はなくなるらないよね

今日も川
流れてるねー

森は、雨の降る時と降らない時とで
川の水の量の変化を小さくして
くれているんだ。



森林の働き②

土砂くずれを防ぐ働き

土砂流出・崩壊防止機能
っていうよ

森の土の中は、木の根が網の目のように張り巡らされていて、
森の土が流れたり、崩れるのを防いでくれる。

森の中では、強い雨が降っても、下草や落葉、
腐葉土が、雨つぶの勢いを弱めてくれ、
ふかふかの土の中へ雨がしみこんでいくので
流れ出る土の量を大幅に少なくしてくれる。
そして、木の根の力で、土砂が流れ出たり、
崩れたりするのを防いでくれているんだ。



ガッ、チリ

土壌層

落ち葉・枯れ枝が積み重なっている層

土が乾燥したり、水で流されたり、
風で飛ぶのを防ぐ

有機物がたくさんある層

木や草の養分になる腐葉土があり、
木や草の根が、張りめぐらされている

森の土は
穴だらけすきだらけ

森林の働き③ 地球
 STOP the 地球温暖化

地球温暖化防止機能

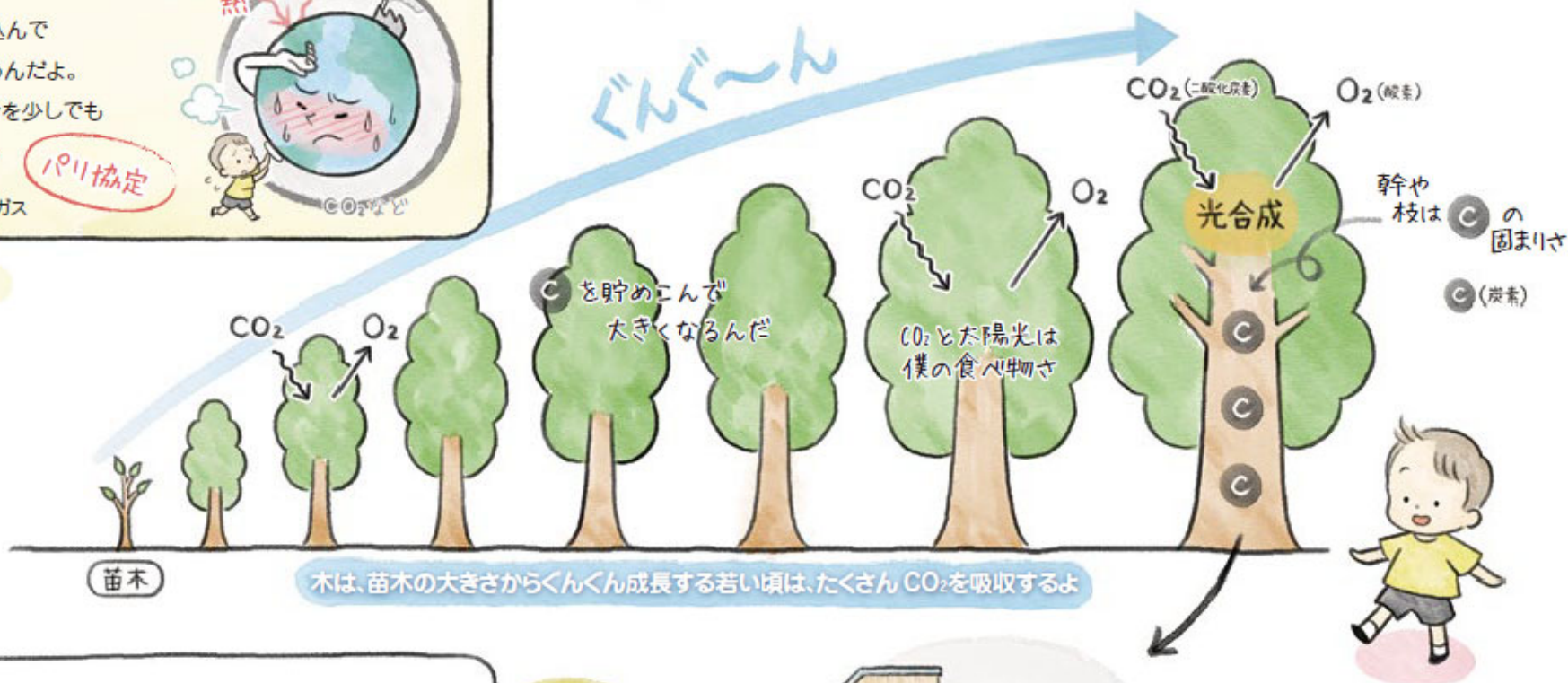
地下にある石油などの化石資源を使い
続けていると、大気中の CO_2 など^{*}の
割合がどんどん増えて、
地球が温室みたいに熱を溜め込んで
だんだん暖かくなってっちゃうんだよ。
世界では、この CO_2 などの割合を少しでも
減らしていこうとしているんだ。

※温室効果ガス



木は、葉っぱが光合成することで、小さな苗木から大きな木に成長していく。
 空気中の“CO₂”をどんどん吸収して“C”として幹や枝などに貯めこんでいくんだよ。
 この働きが、地球温暖化防止に役立ってくれる。

地球温暖化が進むと
豪雨や台風が頻発するなど、
異常気象が起こりやすいつて
言われているよ



毛11毛11
吸収するぞ
CO2

CO₂をたくさん吸収する元気な
森林や若い森林をつくっていくことで、
地球温暖化の防止に貢献するんだ！

これから
CO₂をいっぱい
吸収して大きく
なるんだい



伐った後も
建物などに
使うことでCを
貯めておけるんだ



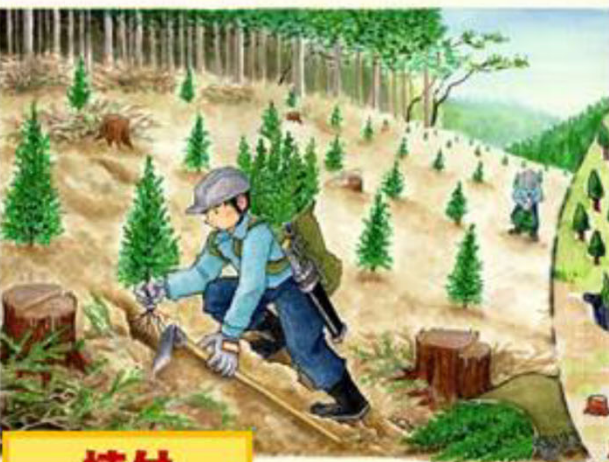
下刈り



除伐・つる切り



枝打ち



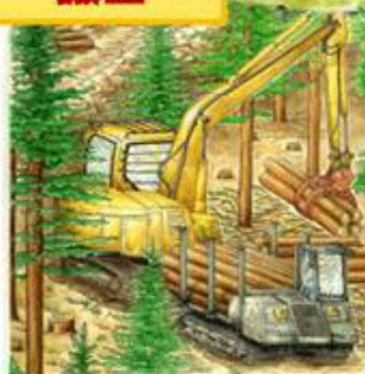
植付



間伐



地拵え



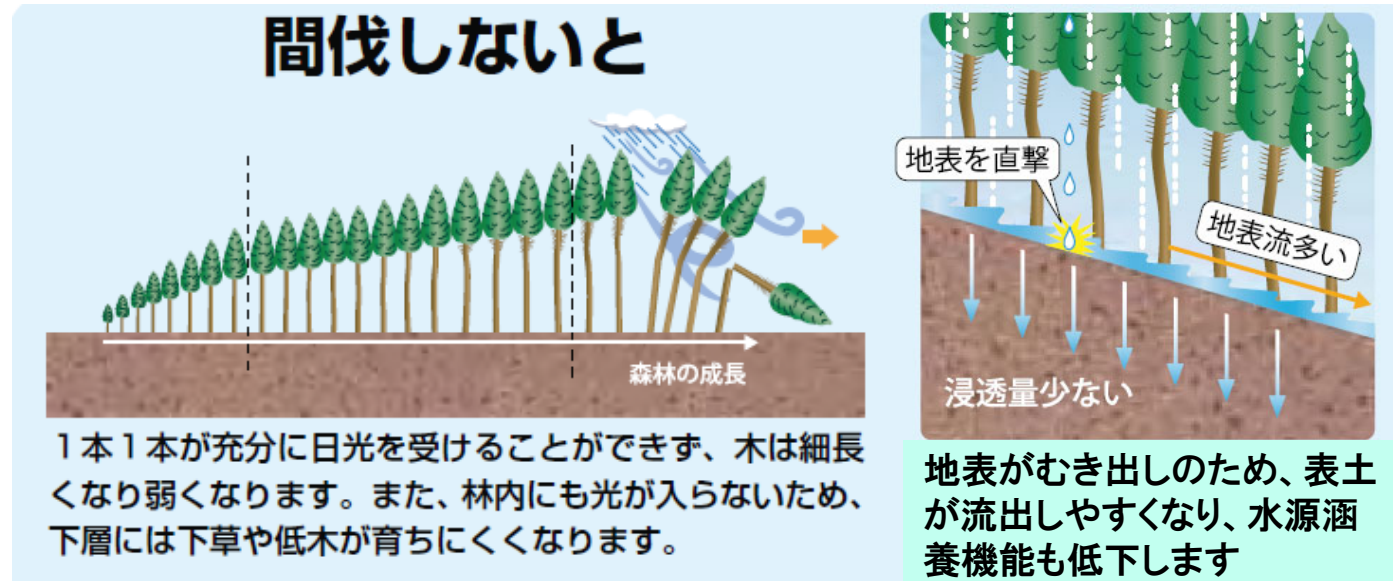
搬出



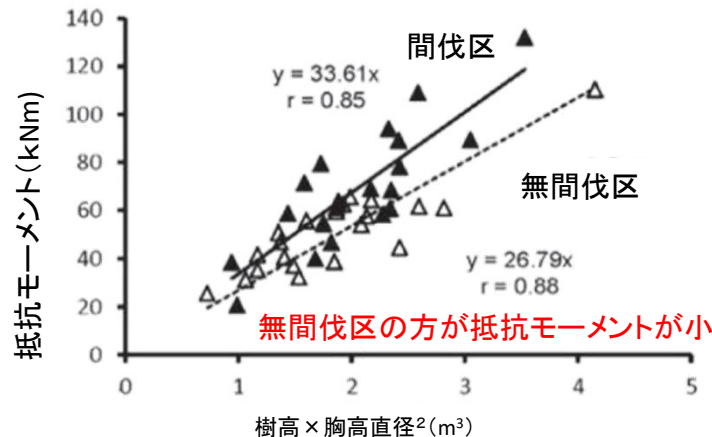
主伐

森林整備の必要性について

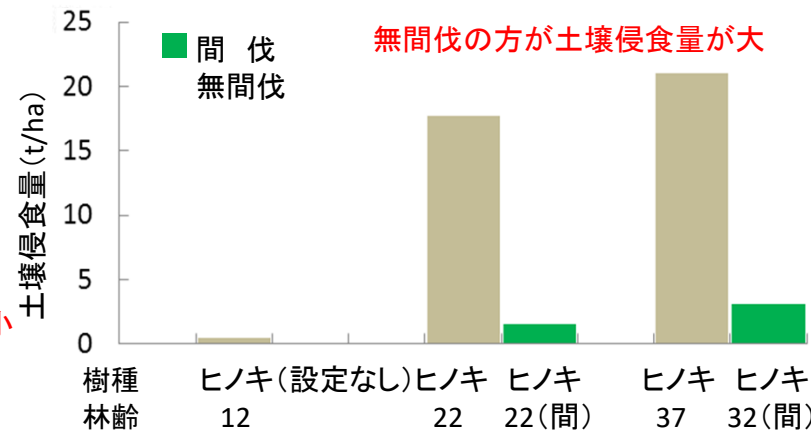
- 森林は、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止などの働きを発揮し、地域に様々な恩恵。
- 一方、適切な手入れ（間伐等）を実施しなければ、その機能は失われることから、適時適切な手入れが必要。



**山崩れや風倒
被害が発生**



間伐区と無間伐区の比較 1)



間伐による土壌侵食量の違い 2)

- 1) 藤堂千景ほか 2015. 間伐がスギの最大引き倒し抵抗モーメントにもたらす影響. 日本緑化工学会誌41(2)より作成
- 2) 北原曜 2008. 人工林の荒廃で土砂が川に流れ込む. 恩田裕編「人工林荒廃と水・土砂流出」岩波書店より作成

内 容

1. SDGsと森林
2. 森林環境教育とは
 - 森林・林業分野からの視点
 - 教育分野からの視点
 - 山村振興からの視点
3. 森林環境教育の課題と方向性
4. SDGs時代の森林環境教育

森林環境教育の意義（教育分野からの視点）

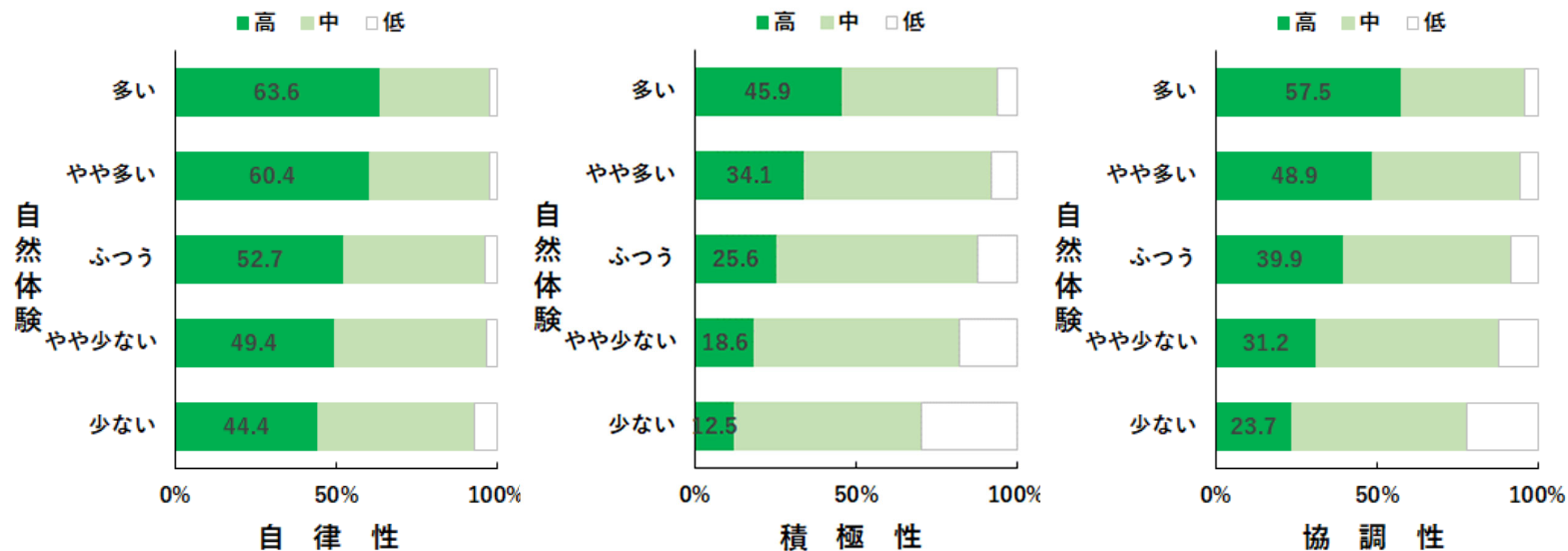
教育において、体験活動は様々な効果がある

今後の青少年の体験活動の推進について(答申)(平成25年1月21日 中央教育審議会)

- 体験活動は教育的効果が高く、幼少期から青年期まで多くの人とかかわりながら体験を積み重ねることにより、「社会を生き抜く力」として必要となる基礎的な能力を養うという効果がある。
- 体験活動は、仲間とのコミュニケーションや自分自身との対話、実社会とのかかわり等を考える契機となり、結果、他者への共感や日本人としての心の成長、個人や社会の歴史の形成につながっていく。
- 自然や人とかかわりの中で命の尊さについて学ぶことができる。他者や生き物への配慮を含め、社会全体を考える人間を育むためには、教育的視点に裏打ちされた自然や文化などに触れる幅広い体験が必要である。

森林環境教育の意義（教育分野からの視点）

自然体験が豊富な子供ほど、自立的行動習慣が身についている傾向がある。



資料：独立行政法人国立青少年教育振興機構調査「青少年の体験活動等に関する意識調査（平成28年度調査）」

教育分野の動向

学習指導要領の改訂の動き

H26年度 (2014年度)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)
● H26.11.20 諮問 中央教育審議会審議 ● H28.12.21 答申								
小学校		●	H29.3.31 告示			全面実施		
中学校		●	H29.3.31 告示			全面実施		
高 校			●	H29年度 告示				全面実施

教育分野の動向

改訂小学校学習指導要領(H29.3.31)総則部分抜粋

主体的・対話的で深い学び

引き続き重要な位置付け

- 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること、(第1章総則 第1-2(2))
- 知識を相互に関連付けてより深く理解したり, 情報を精査して考えを形成したり, 問題を見いだして解決策を考えたり, 思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実に努めること。(第1章総則第3-1(1))
- 児童が生命の有限性や自然の大切さ, 主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう, 各教科等の特質に応じた体験活動を(中略)実施できるよう工夫すること。(第1章総則第3-1(5))

ESDの考え方に共通

地域社会との連携

- 教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど, 家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また, (中略)地域における世代を越えた交流の機会を設けること。(第1章総則第5-2)

内 容

1. SDGsと森林
2. 森林環境教育とは
 - 森林・林業分野からの視点
 - 教育分野からの視点
 - 山村振興からの視点
3. 森林環境教育の課題と方向性
4. SDGs時代の森林環境教育

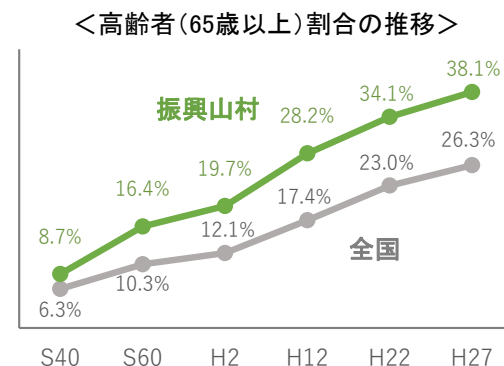
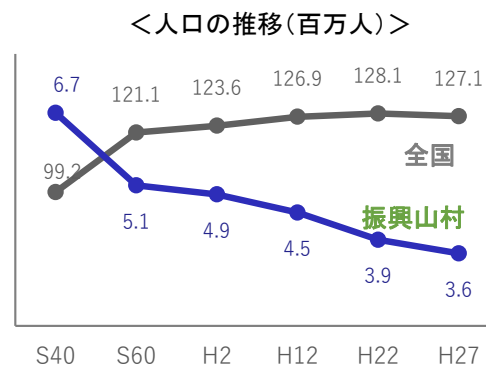
森林環境教育の意義（山村振興からの視点）

- 日本の森林の6割は山村にある
- 国土面積の5割を占める山村を、全人口の3%が支えている

■ 日本の林野面積の約6割は振興山村

	市町村数	人口	総面積	林野面積
全国(a)	1,718	12,710万人	3,780万ha	2,480万ha
振興山村(b)	734	360万人	1,789万ha	1,516万ha
対全国比(b/a)	43%	3%	47%	61%

■ 振興山村では全国に先駆けて人口が減少・高齢化



※国勢調査、農林業センサス(旧市町村名との整理)を基に作成。

- 山村では、人口の減少と高齢化が進展

内 容

1. SDGsと森林

2. 森林環境教育とは

- 森林・林業分野からの視点

- 教育分野からの視点

- 山村振興からの視点

3. 森林環境教育の課題

4. SDGs時代の森林環境教育

森林環境教育の利点

森林環境教育には様々な側面がある

森林・林業分野の視点

森林・林業の重要性を理解していただくこと

教育分野の視点

体験活動を通じて子どもの学びを深め、多様な価値観を共有する世の中での「生きる力」を高めること

山村振興の視点

将来の社会の担い手となる子どもたちの山村への理解・関心を高めること

森林環境教育の利点、森林の教材としての強み

- 多様な動植物による生態系が形成され、他者とのつながりを学べること。
- 持続的な営みが可能であること
- 地域の人々の暮らしや歴史と密接に関係すること
- 熱帯林の伐採問題や温暖化防止対策など、広い視点での学びが可能なこと。

森林環境教育の課題

行政・学校・地域の連携がなく、個別の取組が有機的につながっていないのではないか。

学校の現状

- 先生は一般的に森林の専門知識が少ない。
- 先生が多忙であり準備に費やせる時間が少ない。
- 様々な「〇〇教育」の存在。

「〇〇教育」は数多くある

情報教育、プログラミング教育、産業教育、防災教育、安全教育…(H28.12.21 中教審答申)

この他にも、インクルーシブ教育、ICT教育、人権教育、消費者教育、環境教育、自然体験教育、食農教育、エネルギー教育、交通安全教育、心の教育、ボランティア教育、多文化共生教育、健康教育、動物愛護教育、NIE教育…

森林関係者側の課題

- 専門分野であるが故に、樹木や生き物の名前、特徴などを伝えることに時間が割かれがち。

➡ 従来の知識詰め込み型教育と同様

- 体験自体（楽しむこと）だけで終わってしまう。

➡ 学びの要素が無い



教育分野が求めていることに合っていない

内 容

1. SDGsと森林
2. 森林環境教育とは
 - 森林・林業分野からの視点
 - 教育分野からの視点
 - 山村振興からの視点
3. 森林環境教育の課題
4. SDGs時代の森林環境教育

SDGs と森林



我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係

- 森林そのものが様々なSDGsに貢献。さらに森林資源・森林空間の利用を通じ、様々なSDGsに貢献。
- これらの利用は、林業・木材産業を通じ、森林の整備・保全に還元されるという大きな循環につながっている。



注1：アイコンの下文言は、期待される主な効果等を記載したものであり、各ゴールの解説ではない。

2：このほか、ゴール1は森林に依存する人々の極度の貧困の撲滅、ゴール10は森林を利用する権利の保障、ゴール16は持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組みの促進等に関連する。ここに記載していない効果も含め、更にSDGsへの寄与が広がることが期待される。

14:30～ 15:20	概要報告	「令和2年度 つたえる、感じる、つながる、森林×SDGsプロジェクト」事業概要報告 ①全体報告 ②2050年の未来予想図ワークショップ実施報告 ③森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー実施報告
15:20～ 16:20	事例報告	①森林環境教育に立脚した地方創生を実現 (長野県泰阜村グリーンウッド自然体験教育センター) ②【森林x公教育】学校と”共に創る”森林環境教育の道筋 (ホールアース自然学校福島校) ③すべての人と森をつなぐ体験を提供 (岐阜県立森林文化アカデミーmorinos)
休 憩		
16:30～ 17:25	パネルディスカッション	「つたえる、感じる、つながる森林環境教育のためにできること」 〔進行〕 - 宮林 茂幸(東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科 教授、美しい森林づくり全国推進会議 事務局長、検討委員会 座長) 〔登壇者〕 - 天笠 茂(千葉大学特任教授、中央教育審議会副会長、検討委員) - 竹内 延彦(長野県池田町教育長、森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク副代表、検討委員) - 辻 英之(グリーンウッド自然体験教育センター 代表理事) - 和田 祐樹(ホールアース自然学校福島校) - 萩原ナバ裕作(岐阜県立森林文化アカデミー(morinos)) - 安高 志穂(林野庁 森林整備部 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長) 議題： ① 学校教育での森林環境教育を増やすには？ ② 世代間(乳幼児期から学童期、学童期後半から青年期等)の森林体験のギャップを埋めるには？ ③ 別関心層を森林空間に呼び込む工夫とは？ ④ 質疑応答

ご静聴ありがとうございました



写真：林野庁HPより

将来世代のために



令和2年度つたえる、感じる、つながる、森林×SDGsプロジェクト共同事業体

つたえる、感じる、つながる 森林×SDGsプロジェクト事業

令和2年度

事業概要-全体報告

2021年3月3日

株式会社 かいはつマネジメント・コン
サルティング
一般社団法人 森と未来

事業概要

【事業期間】

2020年8月-2021年3月

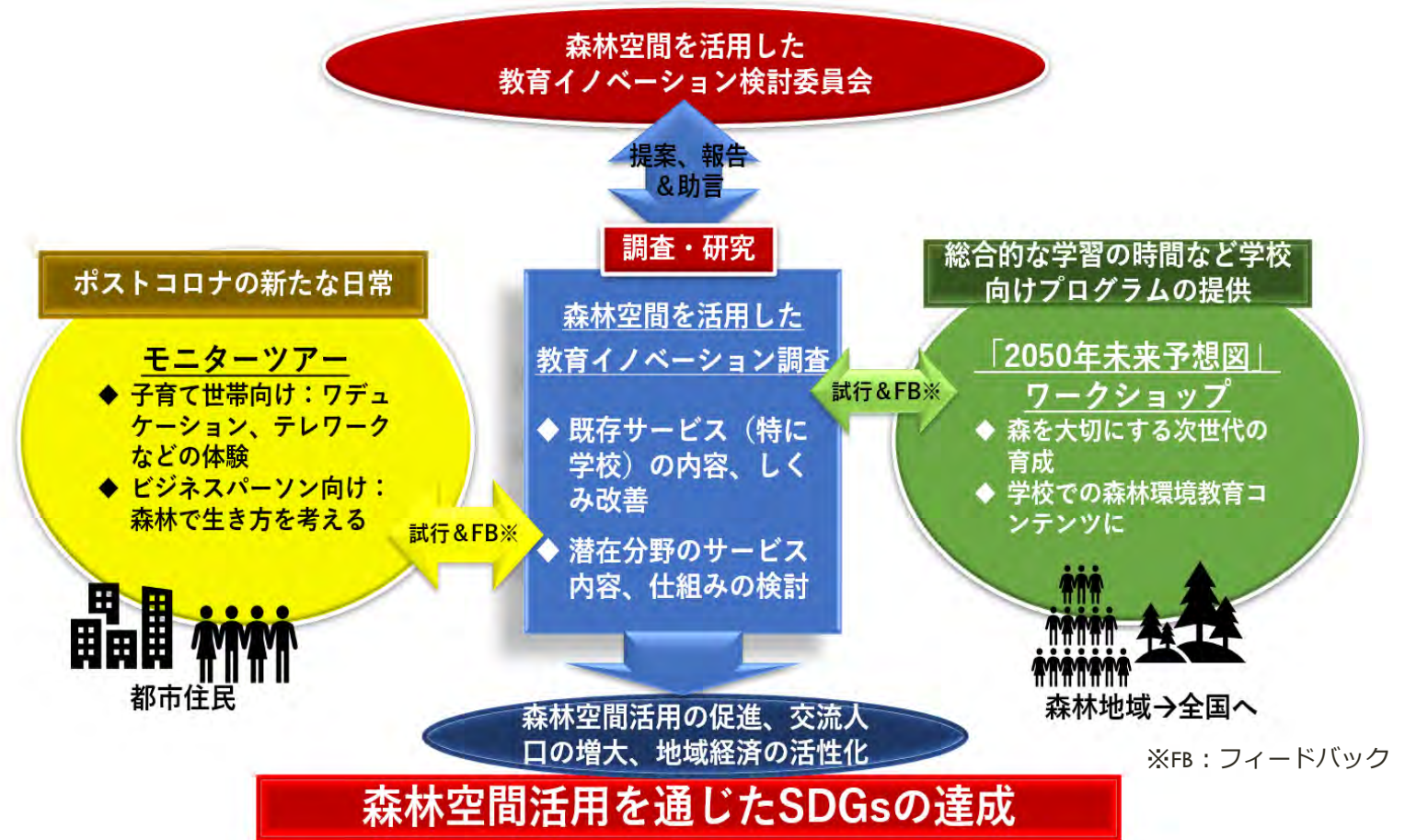
【目的】

- 森林空間を活用した自然保育や学校教育、企業研修等、様々な「教育」にかかる現状、ニーズ、課題を調査し、今後の森林環境教育の推進に向けた新たな方向性を検討する。

→ 教育イノベーション調査（本発表）

- これまで森林と関わりの少なかった都市住民や未来の社会の中核を担う中学生・高校生に対して、前者に対し森林の新たな楽しみ方を提案し、後者とは未来予想図を作成する事業を実施、対外的に発信することにより、これら対象層の森林に対する理解・関心を高める。

→ ワークショップ、モニターツアー



森林空間を活用した教育イノベーション検討委員会

- **目的**：森林空間を活用した自然保育や学校教育、企業研修等様々な「教育」にかかる現状、ニーズ、課題を調査し、具体的な政策パッケージとして整理を行い、今後の森林環境教育の推進に向けた新たな方向性を検討する。

- **開催**：3回

- 第1回（9月4日）：事業方針の検討
- 第2回（12月3日）：中間報告
- 第3回（2月9日）：報告書内容検討

属性	氏名	所属・役職等（令和2年9月4日現在）
座長	宮林 茂幸	東京農業大学地域環境科学部 地域創成科学科教授 美しい森林づくり全国推進会議 事務局長
委員	天笠 茂	千葉大学特任教授 中央教育審議会副会長
委員	指出 一正	「ソトコト」編集長
委員	島田 由香	ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 取締役人事総務本部長
委員	竹内 延彦	長野県池田町教育長 森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク副代表
委員	南方 慎治	株式会社ルネサンス 営業企画部トラベルチーム課長
委員	山下 宏文	京都教育大学教授 元 森林ESD研究会座長
委員	吉弘 拓生	内閣官房地域活性化伝道師 総務省地域力創造アドバイザー

森林空間を活用した教育イノベーション調査

- 目的：SDGs 時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーションの可能性を探る。
- 方法：先進的な森林体験や森林環境教育を提供している事業者や関係者に対する遠隔インデプスインタビュー※（対象者30人）＋文献調査＋補完的な顧客アンケート

※対象者と調査者が一対一で対話する、定性調査の代表的なインタビュー手法。

本事業が目指す森林環境教育と森林体験の位置付け



【問題意識】

行政・学校・地域の連携がなく、学校内外及び子どもの各発達段階に応じた個別の取組が有機的につながっていないのではないかと。

発達段階に応じた 森林環境教育の現状

- 幼児向け：森のようちえんの人気は高まっているが、供給不足がボトルネック。
- 青少年向け：学校での森林環境教育は授業枠の確保が課題。特に小学校高学年以降、塾や部活で子供は多忙、森林環境教育の空白期間に。
- 社会人向け：黎明期、市場は小さい。経営者向けリトリートなどサービスは多様化。

対象者	短期、単発、訪問型体験		長期、継続、定住型体験	
	サービス内容	実施期間	サービス内容	実施期間
幼児	各種団体、企業が企画する森のようちえんイベント	数時間～1日程度。	森のようちえん	通年。週4～5日の保育
小学生	各種団体、企業が企画する森の学童保育イベント	半日から1日程度。	各種団体、企業が企画する森の学童保育でコース型のもの	数時間～1日、週1～月1回程度
	学校での森林体験イベント（校外学習や林間学校など）	1, 2時間～半日程度。林間学校は1～2泊。	学校での森林体験（森林での教科学習や総合的な時間を利用した森林体験・学習など複数回にわたるもの）	1, 2時間～1日程度を数回～。
	学校以外の組織が企画する森林体験イベント	1, 3時間～半日程度。	学校以外の組織が企画する複数回にわたる森林体験	1時間～1日程度を数回～。定期開催も。
	各種団体、企業が企画するサマーキャンプ	1～2泊程度。最大30泊まで。	山村留学	転校前提で1年間。
中高生	学校での森林体験（登山・林間学校・教育旅行など）	1～2日程度。教育旅行は2～3泊（うちの半日から1日程度）。	学校での森林体験（森林での教科学習や総合的な時間を利用した森林体験・学習など複数回にわたるもの）	1, 2時間～1日程度を数回～。
	学校以外の組織が企画する森林体験イベント	1, 3時間～半日程度。不定期開催が多い。	学校以外の組織が企画する複数回にわたる森林体験	1時間～1日程度を数回～。定期開催も。
成人向け	森林での社員研修・CSR活動	1～数泊程度		
	森林でのエクゼクティブリトリート	1～数泊程度		
	森林でのキャンピングオフィス	数時間～数泊程度	森林でのサテライトオフィス	常設型

学校を中心とした各種組織が実施

学校以外の組織が実施

新しい試みと機会

- 教員の負担軽減
- 森林で教科学習を行う工夫
- 地場産業やキャリア教育との連携
- 自然学校との連携
- 地域学校協働活動など地域との連携
- 社会課題解決型の部活動の推進

事例②
ホールアース福島校

学校の枠内



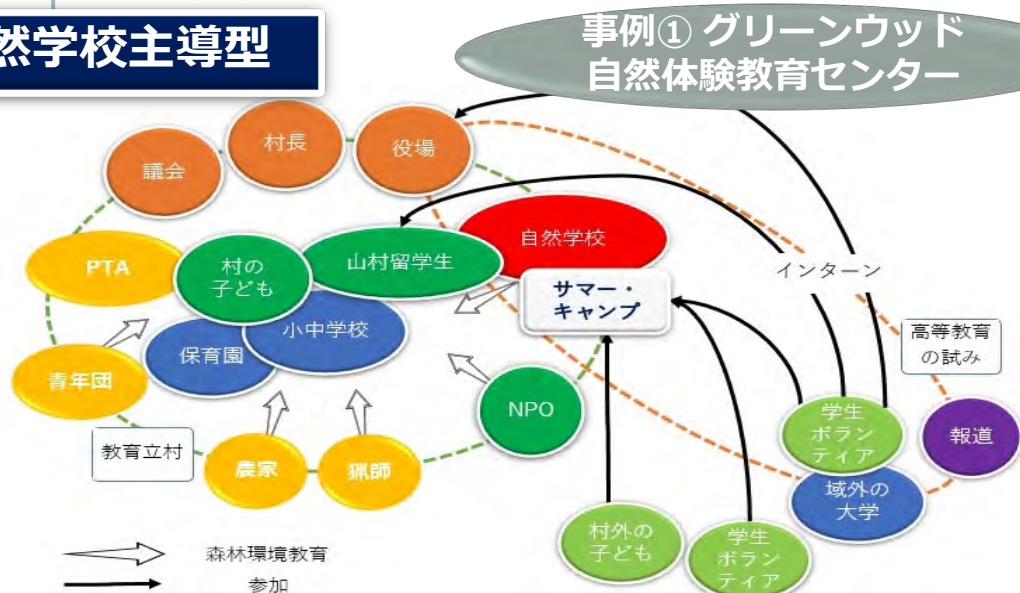
- ライト層や別関心層に向けたプログラムの提供
- 顧客の不安に寄り添い、満足度を高める対応
- 長期キャンプなど多様なプログラムの提供
- 森林を利用したキャンピングオフィスやリトリート、研修サービスの認知拡大
- 教育を軸とした移住振興とコミュニティづくり
- 地域間連携を軸とした都市部の子供たちへの森林環境教育の提供
- オンラインでの実施などデジタル技術の活用

学校の枠外

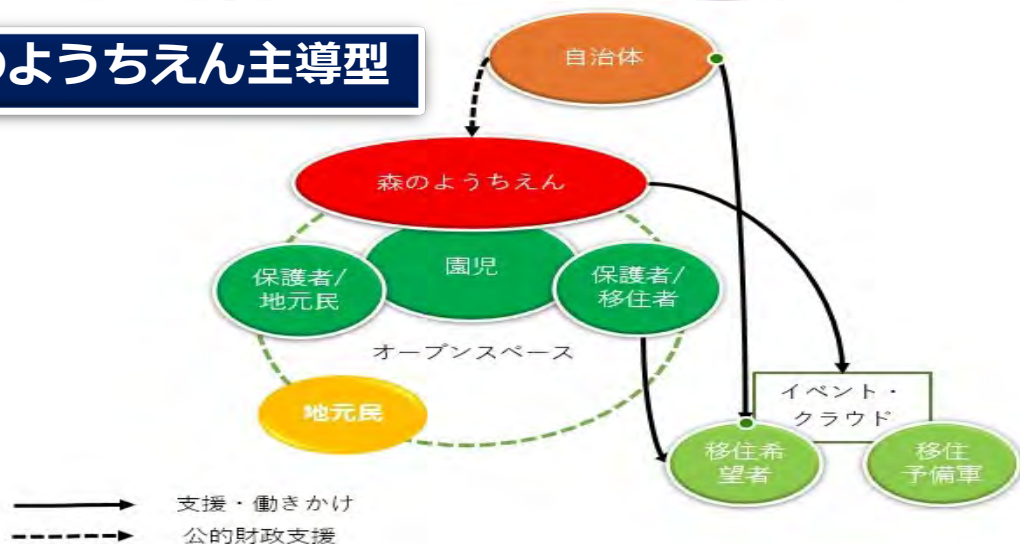


森林環境教育を有機的につなぐことに成功しているパターン

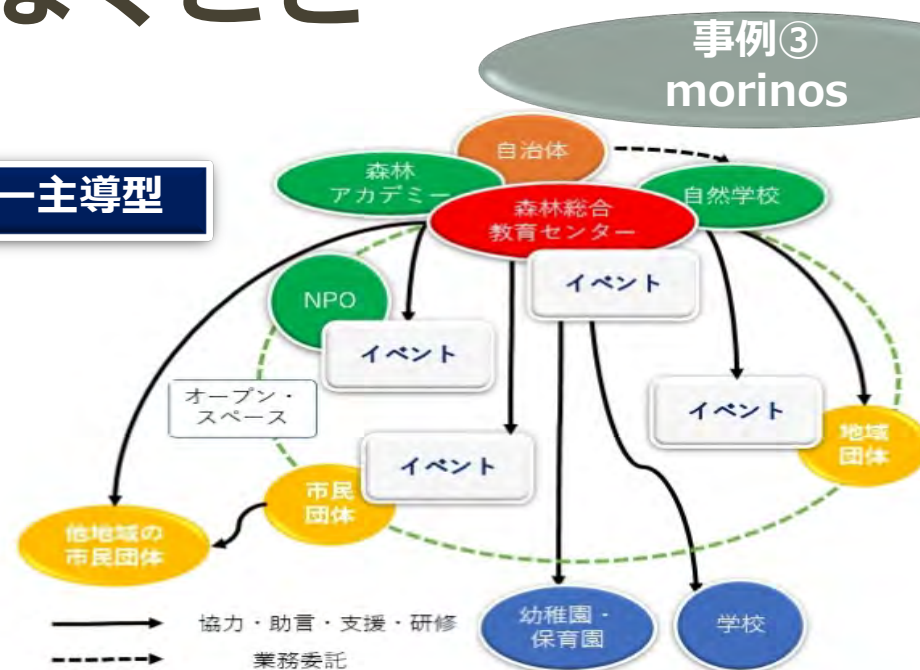
自然学校主導型



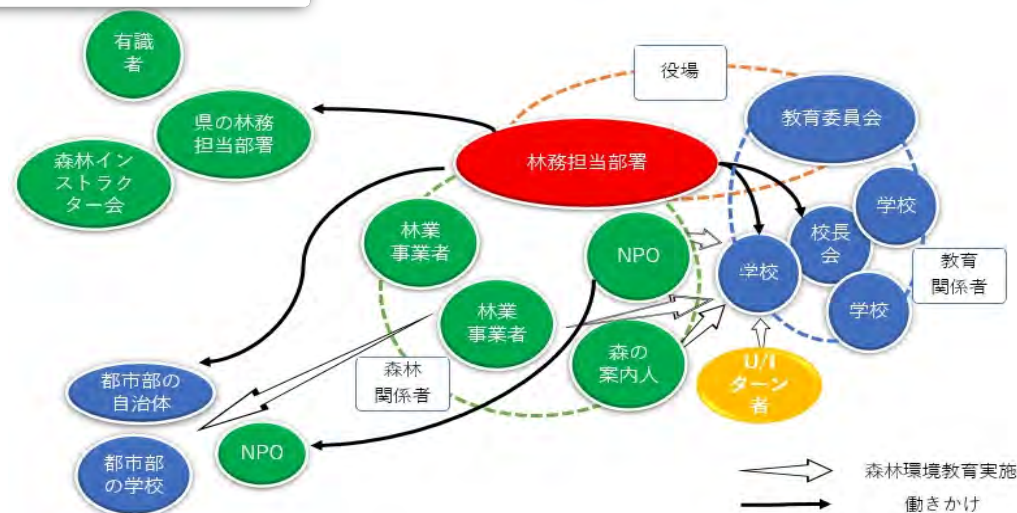
森のようちえん主導型



公的セクター主導型



地場林産業主導型



連携体制を築き、持続させるためのキーポイント

つながる

- 1) **相手の目的・立場に立って**考え、課題を聞き、対処する。
- 2) 人と人をつなげる**人を育て**、人と人がつながる**場を作る**。
- 3) 市民参加も含め、**柔軟に**プログラムを企画・運営する。
- 4) **政策**に積極的に関与する。
- 5) 民間と行政の**マインドの違い**を理解する。
- 6) 行政内の異なる**部署の役割**を知り、柔軟に連携する。

続ける

- 1) **継続的に関与し続ける人**、熱量を持ったアクターを育てる。
- 2) 行政の**異動に効果的に対処**する。
- 3) 森林環境教育提供者がつながって**定期的に情報を共有**する。
- 4) **活動資金**を継続的に確保する。
- 5) **特定の人に我慢させない**仕組みを作る。
- 6) 学びを支える**人の循環**を生み出す。
- 7) **地域に根差す**。



2050年の未来予想図ワークショップ 実施報告

2021年3月3日

令和2年度つたえる、感じる、つながる、森林×SDGsプロジェクト最終報告会

株式会社 かいはずマネジメント・コンサルティング

一般社団法人 森と未来



1. 目的

【対象】
中学生
高校生

【未来予想図】とは
SDGsの趣旨を参考に、地域、日本、世界、地球が2050年にどのようなになっているか、
その中で、将来の自分たちと森や都市の関係をどうしていきたいか、地域はどうなっていきたいかを描く

- 森林と自分たちの暮らしの関わりを「自分ゴト」化
- 森林に対する理解・関心を高める

2. 開催概要

生活圏内における森林の有無や、日常的な森林との関わりに留意し、5地域を選定。

	東京都内	福岡県篠栗町	山梨県北杜市	静岡県掛川市	長野県根羽村
開催日	10月29日	11月28日	12月1日	12月5日	12月13日
時間（全体/WS）	120分/120分	1日/150分	100分/100分	1日/150分	1日/120分
参加者	中学生20名	中学生19名	中学生40名	高校生12名	小・中学生14名
森林体験	なし	あり	なし	あり	あり
成果物	模造紙、画用紙に絵や言葉で表現				

3. 実施方針

①身近な森林とSDGsへのつながり、
自らできるアクションを考える。

地域の森林体験や自らの森林体験の振り返りを行い、自らの30年後をリアルに想像する。

②森林との様々なかかわり方を知り、
視野を広げる

森林サービス産業や最新技術を活用したマテリアル利用など、森林の新たな可能性を紹介。

ワークショッププログラム（篠栗町での開催例）

内容（150分）	時間
ワークショップ導入（都内開催校のメッセージ視聴）地域の案内人、ファシリテーター紹介、フォレストバトン・パスの説明	20分
ワーク①森の印象	10分
ワーク②未来の森を想像する	15分
ワーク③未来予想図実現へのアクション	5分
<休憩>	5分
アイデア発表（各グループ3分）	20分
コメント・質疑応答	10分
撮影の説明	5分
ワーク④フォレストバトン・メッセージまとめ	15分
フォレストバトンメッセージ(各グループ1分)	20分
撮影	
閉会挨拶 / アンケート	15分

3. 実施方針

③フォレストボタン・パス

理想の未来の実現のためのアイデアやアクションを、次にボタンを渡す学生に向けたメッセージとともに発表・撮影。
動画は編集し、次回開催校で放映する。

各地のメッセージ動画をユーチューブにアップロードし、一般公開。
各地の生徒が相互のアイデアを知ること
で、気づきが生まれ、アクションを起こ
す動機付けにもつながることを狙う。

④継続的实施に向けた体制を考察

教育関係者等にコメントをいただき、学
校のカリキュラム内で実施する上での検
討事項やハードルを明らかにする。地域
主体で実施できるよう、ノウハウを
「ワークショップ実施マニュアル」に整
理。

ワークショッププログラム（篠栗町での開催例）

内容（150分）	時間
ワークショップ導入（都内開催校のメッセージ視聴）地域の案内人、ファシリテーター紹介、フォレストボタン・パスの説明	20分
ワーク①森の印象	10分
ワーク②未来の森を想像する	15分
ワーク③未来予想図実現へのアクション	5分
<休憩>	5分
アイデア発表（各グループ3分）	20分
コメント・質疑応答	10分
撮影の説明	5分
ワーク④フォレストボタン・メッセージまとめ	15分
フォレストボタンメッセージ(各グループ1分)撮影	20分
閉会挨拶 / アンケート	15分

森林体験の様子（福岡県篠栗町での森林セラピー）

森の風 篠栗森の案内人
PTA、篠栗町教育委員会
篠栗町観光協会等
の協力のもと実施



修験道と関連の深い歴史
ある森を、森林セラピーガイ
ドの案内のもと歩く



大杉の前で、森からの
メッセージを書き留める



森に寝転び、
空を眺める



木に抱きつい
てみる

森林体験の様子（静岡県掛川市での森林施業現場視察）

掛川市森林組合、地域づくりに携わる民間企業の協力のもと実施



高性能林業機械による作業見学



伐倒作業の説明



植林された伐皆跡地



電動アシスト付き自転車で林内へ



スウェディッシュトーチ



電動薪割り機を体験



人力による薪割りを体験

森林体験の様子（長野県根羽村での森林散策）

根羽学園学生実行委員会、
根羽村教育委員会、根羽村猟友会、
（一社）ねばのもり等の協力のもと実施



村内の森の散策



森からツタや葉を採集



ツタを使って縄跳び



森の木や葉を使って、リースやフォレストボタンを制作

フォレストボタン・メッセージ動画放映 (3分)



4. 成果物（一例）

① 森の印象

- いやし、歴史、音、神秘、リラックス
- チップ上を歩くと心が落ち着く。
- 苔がつるつる滑る。
- 静かで鳥の鳴き声が聞こえる。
- 針葉樹はレモンみたいな香りがする。
- 緑色で目がよくなりそう。

② 未来の森

<ビジョン>

- 高齢者も子どもも安心して楽しめる森
- 動物が安心して過ごせるように、安全な場所をつくる。
- 子どもの頃に夢見た秘密基地をつくる。



4. 成果物（一例）

＜森林サービス産業利用＞

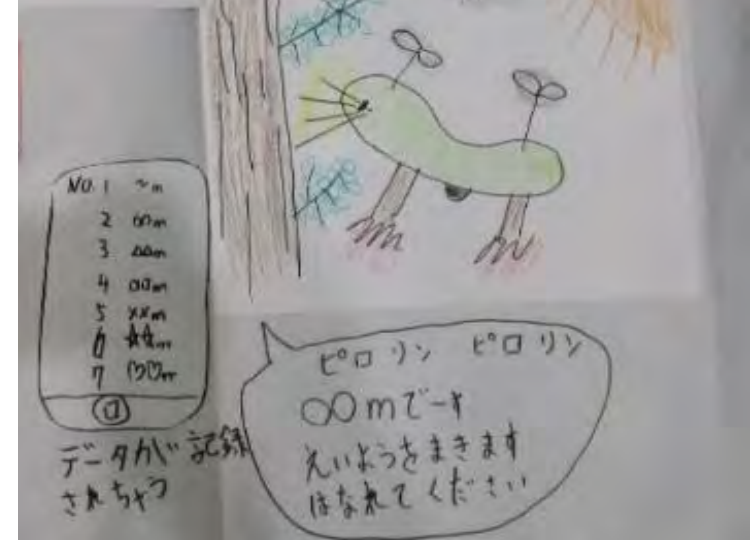
- 森のアトラクション：
- 透明なエレベーターで若杉山の頂上に上り、若杉山の頂上から米の山まではすべり台でつなぐ。
- 頂上にカフェをつくる。
- 仕事場として利用できるツリーハウス
- 色んな果物や山菜を植えて、採って食べながら登る。
- 昆虫園をつくる。1時間～円で、昆虫取り放題。



4. 成果物（一例）

＜木材の活用＞

- ヒノキ、スギからエッセンシャルオイルを作り、加湿器で使う。保湿コスメ。
- 木を丸々お風呂に入れる。
- ヒノキのスモークチップを売った収益で新しい苗木を買い、木が少ない地域に提供する。



＜未来の技術＞

- ドローンによる効率的な森林伐採・管理。
- 都会人もハンディキャップを持つ人も森林を感じられるバリアフリーの森林空間
- VR森林案内ロボットで人件費削減。
- 立体音で森を表現し、どこでも森を感じられるように。
- 自然や生物がしゃべる
- 空飛ぶ車やバイクで楽しむ

4. 成果物（一例）

③未来予想図実現へのアクション

- 森に行って、森を好きになる。
- 森について知る。
- 森にゴミを捨てない。ゴミを拾う。
- まずは林業を身近にすることで、関心をもたせ、支持を集める。
- 子ども世代にも受けが良くなり、担い手が増える。
- 間伐で森を整備することで誰もが来やすい場所にする。
- ツリーハウスが作れるような大きな木を育てるために、間伐作業や植林をする。

<参加生徒による感想>

8割以上の参加者が、 新たな気づきや学びを得たと回答

気づきや学びの例：

- 身近な自然への関心、課題の発見
- 森を知り、関わっていくことの大切さ
- 森林の新たな可能性
- グループワークや発表方法に関する学び

7割以上の参加者が、“森林についてもっと 知りたい、調べてみたいと思った”と回答。

関心内容の例：

- 世界・日本の森林の現状や生態系保全、森林保全活動
- 森林の利活用の現状と新たな取組
- ワークショップで出たアイデアに関連するもの
- 他の地域の森林環境や取組

➤ **森林体験やワークショップが、森林との関わりを自分ゴト化するきっかけに**

5. 提言

①継続的な実施に向けて

開催時間の確保

- 学校は、総合的な学習の時間、教科の時間、課外活動、部活動等の時間を、状況と目的に応じて確保。
- 授業時間内に行う場合、前年度から計画的に時間を確保する。

生徒によるプロジェクトの拡大

- 参加学生のオンラインでの交流の場を設定し、他地域との連携を拡大。
- 次年度のワークショップの開催先の募集や、企画・運営、成果物の整理や動画編集等も生徒主体で行っていきけるよう、ノウハウを蓄積する。

関係者の協力

- 森林体験の支援や専門知見を有する人材など、地域ぐるみで森林環境教育を行う体制構築が重要。
- 体制を担保する資金の確保を行う。

5. 提言

②目的に応じたプログラム構成の検討

森林体験の有無を含めたプログラム構成は、下表のメリット、デメリットを参考に、森林の有する多面的機能からテーマを選択するなど、生徒に身に付けさせたい能力や目的次第で判断する。

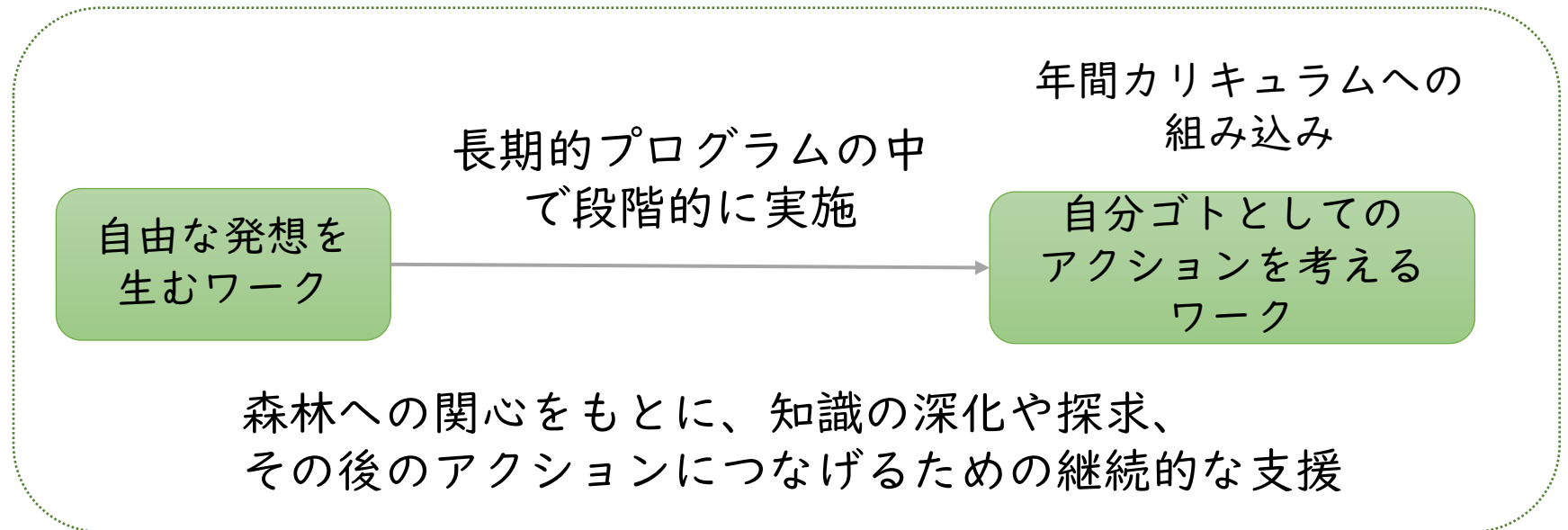
また、森林の文化的側面や保健・レクリエーション分野だけでなく、木材利用など産業としての林業に着目することも重要である。

ワークショップと組み合わせて森林体験を行うことによるメリット/デメリットと目的の設定

体験	目的	メリット	デメリット
あり	<u>身近な森林について、具体的なアクションをとれるようになる。</u> <u>課題解決方法を考えてもらう。</u>	<u>現場感覚に基づき、具体的な課題や可能性を考察できる。</u>	<u>発想が体験内容に縛られがちになる。</u>
なし	<u>森林の新たな可能性に気づかせ、興味を持ってもらう。</u> <u>森林に関心をもち、足を運ぶきっかけを得てもらう。</u>	<u>現実の問題に捕らわれず、自由な発想ができる</u>	<u>森林との関わりを「自分ごと」として捉えにくい。</u> <u>森林との接点がほとんどない場合、発想は限定されかねない。</u>

5. 提言

③長期的なプログラムデザイン



ご清聴ありがとうございました



森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー実施報告

2021年3月3日 最終報告会
株式会社 かいはつマネジメント・コンサルティング
一般社団法人 森と未来

令和2年度つたえる、感じる、つながる、
森林×SDGsプロジェクト共同事業体

目的：これまで森林と関わりが少なかった都市住民に対して、今時の価値観・ライフスタイルに合った森林の新たな楽しみ方や過ごし方を提案することにより、都市住民の森林に対する理解・関心を高める。

実施方針：「ライフスタイル（働き方を含む）」を重点テーマとし、2つのターゲットを対象とする。

モニターツアー	ターゲット	想定されるニーズ
「森林×SDGs 親子で楽しむ森の時間『ワデュケーション』体験モニターツアー」	親子（7～9歳の子どもを持つ30～45歳の多忙な子育て世代）	子どもに自然体験をさせたいが、仕事が忙しくなかなか休みが取れない。夏休みに学童に閉じ込めておくのは可哀そうだなあ。
「森林×SDGs ポスト・コロナ時代のNew Standard探求モニターツアー」	30～45歳のビジネスパーソン	これからの働き方やライフスタイル、ビジネスの新たな可能性について、森の中で五感を研ぎ澄ましてじっくり考えてみたい。

- 都市住民を中心に「ゆとり」や「やすらぎ」を求める傾向が強まっており、健康志向、環境意識の高まりと相まって、Uターン、Iターン希望者が増加するなど、**新しいライフスタイルを実現する場として森林空間を利用する新たなニーズが顕在化。**
- 「**日常に取り入れられる森の時間**～森と一時的につながるだけでなく、日常生活で森とのつながりを感じる機会をつくる」を共通のコンセプトとし、「地域性」に着目。**地域の特徴を活かしたコンテンツや地域の人とつながる機会を創出。**

情報発信：「当事者の真実の声」を重視したメディア戦略

- 消費者は信頼できる本物の情報に飢えており、事実、そして当事者の嘘のない発言こそが、最も強力なコンテンツとなる。
- 大手出版社・企業と連携し、WEBメディア、SNS等を通してツアー内容を発信。

第一回「森林×SDGs 親子で楽しむ森の時間『ワデュケーション』体験モニターツアー」

大人



子ども



親子



内容

これまで森林と関わりの少なかった0～8歳の子どもを持つ3組の子育て世代が、森林空間におけるテレワークと休暇（ワーケーション）、森林環境教育プログラム（エデュケーション）を体験する取材企画

開催時期

2020年10月30日（金）～2020年10月31日（土）

実施場所

山梨県北杜市

ターゲット

親子（7～9歳の子どもを持つ30～45歳の多忙な子育て世代）

参加者

地方への移住や自然体験に関心のある、都市在住の3組の親子

協力

北杜市役所

連携企業

白州・尾白の森名水公園「べるが」、白州・山の水農場、アトリエヨクト

協賛

サントリー労働組合白州支部、シャトレーズ

モニターツアー行程

■ 1日目（10月30日（金））

時間	内容	場所
10:05	小淵沢駅集合	小淵沢駅
10:10	小淵沢駅からべるがへ送迎車で移動	移動
10:30	オープニング・オリエンテーション	べるが
11:00	スタンプラリー	
12:00	昼食（お弁当）	
13:00	森林浴体験	
14:30	子供：サクッと工作 大人：テレワーク	
16:00	チェックイン	
16:30	温泉	尾泊の湯
18:30	夕食	べるが
20:00	大人：森×テレワークの座談会	

■ 2日目（10月31日（土））

時間	内容	場所
7:15	朝のお散歩	べるが
7:45	朝食	
9:00	チェックアウト	
9:30	移動	移動
10:00	きのご農家さん訪問～収穫体験 + 昼食作り～	山の水農場
11:30	昼食 ～きのご汁・新米ご飯～	
12:30	移動	移動
12:50	道の駅白州立ち寄り	道の駅白州
13:15	移動	
13:30	スパイスボトルのワークショップ/ インタビュー	アトリエ ヨクト
15:30	移動	移動
16:00	小淵沢駅着 16:10 解散	小淵沢駅

参加者情報



名前	基本情報	同伴家族
Aさん	東京都在住、会社員、37歳	妻40歳、息子8歳（小学校2年）、娘6歳（幼稚園年長）
Bさん	東京都在住、会社員・イベーター、36歳	娘5歳（未就学児）
Cさん	東京都在住、施設運営業、38歳	妻40歳、息子7歳（小学校1年）、息子0歳児

情報発信

1. PR TIMESによるプレスリリース
2. 動画コンテンツによる発信
3. 参加者によるSNS等での発信

<動画コンテンツ>

- ツアー体験を幅広く発信する6分程度の動画を作成。
- 農林水産省のYouTubeにアップロードした。
- Facebookの「投稿の宣伝」機能を使用し、**国内在住の0歳～12歳の子どもを持つ29歳～45歳の男女**に宣伝した。



親子で楽しむ森の時間～ワデュケーションツアー～

1,656 閲覧数 - 2021/01/14



maffchannel
チャンネル登録者数 2,225人

「親子で楽しむ森の時間～ワデュケーションツアー～」
テレワークに取り組みながら、森林浴やきのこ収穫、木工体験なども楽しむ、
森林空間を使った新しいスタイルの提案。

【参考リンク】

・ <https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson>

・ <https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku>

一部を表示

動画上映

(5分30秒)

第二回「森林×SDGs ポスト・コロナ時代のNEW STANDARD探求モニターツアー」



内容

企業経営者、働き方改革先進企業の経営幹部、起業家など5名の参加者が、体験や参加者同士の対話を通じて、ポスト・コロナ時代の人と森との関係性、働き方・ライフスタイルを探求し発信する取材企画

開催時期

2020年11月24日（火）～25日（水）

実施場所

東京都奥多摩町

ターゲット

30～45歳のビジネスパーソン

参加者

ベンチャー企業経営者、働き方改革先進企業の経営幹部、起業家など5名

連携企業・団体

一般財団法人おくたま地域振興財団、Okutama+、Circus Outdoor、東京・森と市庭

モニターツアー行程

■ 1日目（11月24日（火））

時間	内容	場所
10:15	奥多摩駅集合。ハイエースで登計トレイルに移動します。	奥多摩駅
10:30	オープニングセッション	登計トレイル
11:10	森林セラピー（途中森の中でセラピー弁当）	
14:30	東京・森と市庭へ移動	
15:00	製材所見学、取り組み事例紹介、ディスカッション	東京・森と市庭
16:30	Circus Outdoor Tokyoへ移動	
17:00	Circus Outdoor Tokyo着、チェックイン	Circus Outdoor Tokyo
17:30	夕食	
19:30	焚火を囲んだ対話セッション	
21:00	入浴・フリー	

■ 2日目（11月25日（水））

時間	内容	場所
7:15	朝の散歩	Circus Outdoor Tokyo
8:00	朝食	
9:00	チェックアウト、Okutama+へ移動	
10:00	Okutama+施設見学、テレワーク体験	Okutama+
11:45	山鳩喫茶に移動	
12:00	昼食	山鳩喫茶
12:45	福祉会館へ移動	
13:15	クロージングセッション	福祉会館
15:00	解散	奥多摩駅

参加者情報



ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス
株式会社
取締役 人事総務本部長
島田 由香 様



NPO法人ミラツク
代表理事
西村 勇哉 様



株式会社SANU
創設者/ブランドディレクター
本間 貴裕 様



講談社FRaU編集長 兼
プロデューサー
関 龍彦 様



株式会社 DankoSoft
企画チーム ダイバーシ
ティ推進マネージャー
中 香織 様



おくたま地域振興財団による登計（とけ）
トレイルでの森林セラピー



空がよく見えるよう設計されたベンチ



東京・森と市庭の製材所を見学



サーカスアウトドアの屋外デッキでのたき
火を囲んだ対話セッション



Okutama+のワークスペースでのテレ
ワーク体験



クロージングセッションでの地域の人との
ディスカッション

FR&U 公式WEBサイト掲載記事



2020.12.29 本記事の面白さを知る 本記事のいいところを知る 記事の長さ 記事の難易度 記事のジャンル

森林空間から見出す、ポストコロナ時代における新たな価値観とは【PR】

人と森林をつなぐ探求ツアー (第2回)



2021.02.17 本記事の面白さを知る 本記事のいいところを知る 記事の長さ 記事の難易度 記事のジャンル

「今度、森でコーヒー飲もうよ」森林はもっと身近であっていい【PR】

人と森林をつなぐ探求ツアー (第2回)

前編記事：森林セラピー、製材所見学、森林空間活用等に関する取組事例紹介、ワーケーションなど各プログラム体験を通じた、新たな森林の価値について紹介する内容（2020年12月29日公開）

後編記事：地域の人を交えたクロージングセッション、参加者同士による 焚き火を囲んだ対話セッションを通じた、ポスト・コロナ時代の森林の価値、人と森林の関係性に関する参加者の考え、意見を紹介する内容（2021年2月9日公開）

日本の国土面積約7割を占める森林の価値に気づいていない

宿泊したグランピング施設「Circus Outdoor TOKYO」で焚き火を囲みながら繰り広げられた、熱いトークディスカッションの一部始終をレポート！



与野由香氏と参加者が自由に話せる焚き火ワーケーションを体験する島田由香さん

島田由香（以下島田） 日本は、国土面積の約7割が森林なのに、その希有な魅力にみんなの意識が向いていませんよね。私が専門とする「ウェルビーイング」の観点から考えると、トレッキングや森林浴など、たった30分でも森の空気を吸って、マインドフルネスの状態をつくることは、ウェルビーイングを確実に高めると実証されています。例えば、森の中でもWi-Fiが繋がっている、絶景が見渡せるスポットにパソコンが置けるテーブルとイスがあるなど、仕事ができる環境が整うととっても良いのでは。

「オフィスにいないと仕事ができない」という概念は取り去られてきています。森林空間をどうワークプレイスのひとつにしていくかが重要じゃないかな。企業が率先して森林空間で過ごす機会を取り入れれば、仕事のパフォーマンス向上にもつながるので良いことしかないんですよ。

都市住民の森林への関心を高めるために必要なこと

子育て世代

- ターゲットを明確にする
- 地域の自治体・企業・団体・学校との連携

都市住民の森林への関心を高めるために必要なこと

子育て世代

- ターゲットを明確にする
- 地域の自治体・企業・団体・学校との連携

若手ビジネスパーソン

- ビジネスパーソンにとっての森林空間の価値の整理と普及
- ワークেশョン受け入れ態勢の整備

都市住民の森林への関心を高めるために必要なこと

子育て世代

- ターゲットを明確にする
- 地域の自治体・企業・団体・学校との連携

若手ビジネスパーソン

- ビジネスパーソンにとっての森林空間の価値の整理と普及
- ワークेशन受け入れ態勢の整備

地域性を活かしたコンテンツ形成

- 地域ならではの魅力（自然環境、文化、人など）を取り入れる
- 地域の人暮らしに触れる体験をすることで共感を呼び、印象に残る体験とすることができる

ご清聴ありがとうございました。

